

10ヶ月ぶりの新曲を引っ提げ、星野 源が表紙&巻頭特集に初登場! スペシャル両面ポスター付き!!

GIGS

® すべてのバンドマン＆
プレイヤーを応援する
ロック・マガジン[GIGS]

11

2016 NOV
No.440

平成28年9月27日発行・発売
【毎月27日発行・発売】第28巻・第16号
通巻440号平成2年4月17日 第3種郵便物認可

多様なジャンルを融合させてポップ・ソングへと昇華する稀代なコンポーザーの脳内

星野 源

結成10周年のアニバーサリー・ライブをリハーサルから機材まで徹底レポート!

SCANDAL

最新作「Hey Ho」の音像的核心を暴くNakajinロング・インタビュー

SEKAI NO OWARI

MIYAVI, 04 Limited Sazabys, lynch., ACIDMAN, KANA-BOON, UVERworld...and more!!

BAND SCORE / 星野 源「桜の森」

古賀隼斗 [KANA-BOON]

×

Marshall CODE

王道マーシャルが生んだ驚異のデジタル・アンプ

ここからは目撃からマーシャル・アンプを愛用している古賀に、
同社が初めて発表するデジタル・アンプ“CODE”を
試奏してもらうことにした！ ロックの歴史には欠かせない存在の
マーシャル。そんなブランドが誕生させたCODEには、
一体どんな実力が詰められているのだろうか？ 早速試奏に取りかかろう。



永くマーシャルを愛用してきた古賀にとって、マーシャルとはどんな存在なのか？

「ギターを始めた頃は、アンプ自体にあまりこだわりがなかったんです。軽音部に置いてあったいろんなアンプを使っていたんですけど、友達からは「どのアンプでも一緒に音を出せるのはすごい」と驚かれましたね(笑)。足下のエフェクターで自分の音を作っていたからなんですけどね。でもライブハウスによく出るようになって、

で、マーシャルを好んで使うようになりました。そして決定打となったのが、インディーズのときにレコーディングでJCM2000を使ったこと。エンジニアさんの薦めで鳴らしたら、いい音で気に入りました。すぐにおもうって決めましたね。今では1959とJCM2000 DSL100を使っています。で、今からCODEを試すんです

けど、パネルを見ただけで、いろいろな機能が備わっているみたいですね。これだけの多機能なコンボ・タイプはマーシャル初らしいんですけど、デジタル感の強いハイ・ファイすぎる音になってしまうんじゃないかって、マーシャル・ファンとしてはちょっと心配もあったりなかったりです」(古賀)

これが歴代のマーシャル・アンプのサウンドを1台でクリエイトする“CODE”だ!

1960年代にジム・マーシャル氏が創業し、ロック史と共に歩み続けるマーシャルから、同社が誇る歴代名機のサウンドを1台で実現する画期的なアンプが登場した。プリ・アンプ14種類、パワー・チューブ4種類、キャビネット8種類を内蔵。さらに24種類の歪み系、コンプ、空間系エフェクトとチューナーも装備。エフェクトを最大5種類使用したプリセットを100種類保存でき、ライブからレコーディングまで本機だけで対応できる。内蔵するプリ・アンプ・モデルは'60年代の名機“JTM45”や'60年代～'70年代HRで最も多用された“1959 SLP Plexi”、'80年代のメタル御用達だった“JCM800”、そして最新のモダン・ハイ・ゲイン“JVM410”までを網羅。今回試奏したコンボ・アンプ“CODE 25”は出力25Wだが、100Wコンボやヘッドまで多彩なモデルをラインナップする。さらにBluetoothとUSB搭載でバンドや宅録にも最適な1台だ。



Marshall CODE 25 ¥OPEN PRICE

Specification

Control:
MASTER, PRESET [Edit], VOLUME,
TREBLE, MIDDLE, BASS, GAIN,
PRE FX, AMP, MOD, DEL, REV,
POWER, CAB, EXIT/STORE /
Input / Output:
INPUT, FOOT SWITCH,
HEADPHONE, AUDIO I, USB /
Output Power: 25W /
Size: 350mm (W) × 215mm (H) ×
340mm (D)

試奏していくうちに、どんどんCODEの魅力に惹き込まれていった古賀

最初はプリセット音で好みのセッティングに

古賀がライブで使う1959をもとにしたプリセットから、まず試してもらったのは“45:Plexi”。王道のマーシャルを味わえるプリセットだ。

「トーンのセッティングも普段使っ

ている1959と同じにしてみました。この再現力には驚きですね。デジタル臭さがなく、1959のサウンド特性がすぐ出ています。これこそ僕が大好きなマーシャル・サウンドですよ」(古賀)



古賀愛用のマーシャルに近づけたセッティング

▲プリ・アンプはリッチな音質と優れたレスポンスが特徴の同社製1959 SLP、そこに100Wのパワー・アンプと1960のビンテージ・キャビのサウンドを組み合わせたプリセットが“45:Plexi”だ。これは古賀がライブで使用する組み合わせに近く、「僕のEQセッティングもほぼこれですよ」と古賀もすぐにセッティングを終え、納得のクラッチ・トーンを創り出した。

他のプリ・アンプ・サウンドを試し、感嘆

実は、古賀はJCM2000をレコーディングのメインで使っている。そこで、プリ・アンプの設定だけをJCM2000をシュミレートした“OD DSL”に変更。「僕の好きなマーシャルの歪みです。

JCM2000の感じがかなり出てますね。ゲインが9時、ベースが10時、ミッドが1時、トレブルが10時。このセッティングでKANA-BOONの曲を弾いてみると、すぐく分かんと思います」(古賀)



多数搭載されたプリ・アンプ・サウンド

▲最初に試した1959 SLPの他にも、JTM45、DSL100H、JVM410H、1962 ブルースプレイヤー、JCM2555シルバー・ジュビリー、JCM800等、マーシャルが誇る名機たちのプリ・アンプ・サウンドの数が搭載されているCODE。「どれも再現性がすごいけど、レコーディングで使ってるJCM2000のサウンド(OD DSL)は、“まさにコレ!”って感じです」(古賀)

アプリ“Marshall Gateway App”との連動で、古賀はさらに音作りにのめり込む!

CODEは数々のエフェクターも内蔵。さらにアプリ“Marshall Gateway App”でiPhoneなどと同期できたり、USBでパソコンと繋げて拡張性のある使い方ができたりと、底知れぬ可能

性を持っている。ここからの古賀は3秒に1回の割合で“すごい!”を連発。

「プリ・アンプ、パワー・アンプ、キャビネットの組み合わせを変えられるのは、鳴らしているだけで楽しい

し、ギタリストなら熱中しちゃいますよ。僕自身、レコーディングのときに組み合わせをいろいろ試していますからね。iPhoneと同期させたとき、各ツマミのレベルが数値で分かるのはあ

りがたい。音作りにさらにこだわる事ができます。チューナー・モードにしたときのiPhoneの画面にも驚きですよ。内蔵されているエフェクターのクオリティーも相当高いです」(古賀)



“Marshall Gateway App”で簡単に操作

▲スマートフォンにアプリをダウンロードし、Bluetooth無線経由でCODEとペアリングすれば、スマホ上で音のセレクトから各ツマミの調整が可能になる。「数値で見えて、それが残せるのもイイ!」(古賀)



キャビに加えパワー・アンプも設定可能

▲パワー・アンプをクラシックな100Wからビンテージの30Wに換えたり、キャビネットの変更も即座に実現。「パワー管やキャビを変えるだけで、かなり音が変わる。しかもそれがすぐリアル!」(古賀)



さらに歪みやモジュレーションも調整!

▲「歪みペダルとか、モジュレーションも試してみたいな…」と試し始めた古賀。マーシャル製ガバナーのサウンドにフランジャーを掛け、「おお! これは楽しい!!!」と、もう演奏が止められない状態に突入。



これは禁断の
マーシャル・アンプ
練習用どころか
実践向きですよ

「自分の家に欲しいマーシャルです。最近のレコーディングでは、リズム・トラックを録り終わったら、その上に自宅でリード・ギターや重ねもののフレーズを録って、鯖にチェックしてもらっているんです。そういう作業にも相当役に立ちそう。このアンプを使え

ば、音作りにこだわられるし、仕上がりも伝えやすくなるじゃないですか。モジュレーション系なども内蔵されているから、自分の好きなエフェクターを思うがままに使って試せるし。

マーシャルの種類毎の音質特性を再現してるのもすごいですよ。楽しみな

がいろんな音を作っていくと、その音によって弾かれるフレーズというものもあるんです。分かりやすく言えば、クリーン・トーンだったらコード・トーンを活かしたフレーズを弾きなくなるし、ガバナーを掛けた“OD DSL”にしたら低音弦を活かしたリフや刻みを弾きなくなる。音によって創造意欲をかき立てられるんです。そういう面でも、これだけ多機能なアンプは便利。音のクオリティーも高い。僕はすでに買うつもりになっています。

初心者の方にもお勧めです。各種マーシャルの音をこの1台で知ることできるんです。リスペクトでマーシャル以外のアンプも入ってますから、いろんなタイプのアンプも試せるし。しかもエフェクターも内蔵されているから、マルチ・エフェクターいらずですよ。

各エフェクターはこういう効果があるのかって、楽しみながら知ることができまからね。それで気に入った音を自分で作ったら、エフェクターの設定も含めて保存できると。

iPhoneやパソコンとリンクするのもメチャクチャ便利。ファームウェアの更新でアップデートもされていくから、中身が進化していくアンプでもあるんですよ。これは禁断のマーシャル・アンプですよ(笑)。

これだけいいのに、信じられへんぐらい安い! ってどうしてる(笑)。学校の軽音部とかだと、今後コレを使うんじゃないですか? ヘッドフォン端子もあるんで、家での練習にもいいし、宅録だってできる。50Wだったらライブでも使えて、練習用どころか実践向きですよ」(古賀)

